公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 29 年度 第 3 回理事会

開催日時　　平成 29 年 9 月 29 日（金）
　　15 時 00 分から 18 時 00 分

開催場所　　東京大学理学部 1 号館 331 号室
　　（東京都文京区本郷 7－3－1）

平成 29 年度第 3 回理事会議事次第

1. 開　　会

議事内容

2. 審 議 事 項
　第 1 号議案　新入会員承認の件
　第 2 号議案　委員会委員承認の件
　第 3 号議案　パブリックセッション小委員会設置の件
　第 4 号議案　科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の提案書提出の件
　第 5 号議案　公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞三宅賞規則承認の件
　第 6 号議案　2021 年連合大会開催会場の件
　第 7 号議案　その他

3. 報 告 事 項
　1. 川幡代表理事職務報告
　2. 田近理事(広報担当)職務報告
　3. 中村正人理事(顕彰担当)職務報告
　4. 古村理事(総務担当)職務報告
　5. 北理事(財務担当)職務報告
　6. 倉本理事(ジャーナル担当)職務報告
　7. 浜野理事(大会運営担当)職務報告
　8. グローバル戦略委員会活動報告
　9. ダイバーシティ推進委員会活動報告
　10.教育検討委員会活動報告
　11. その他

4. 閉　　会

（資　　料）

前回議事録

	平成 29 年度第 2 回理事会議事録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1-7

審議事項

第 1 号議案　新入会員承認の件	P.8-11
第 2 号議案　委員会委員承認の件	P.12
第 3 号議案　パブリックセッション小委員会設置の件	P.13-15
第 4 号議案　科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の提案書提出の件	P.16-20
第 5 号議案　公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞三宅賞規則承認の件	P.21-22
第 6 号議案 2021 年連合大会開催会場の件	P.23
第 7 号議案　その他	

報告事項

1.川幡代表理事職務報告	
2.田近理事（広報担当）職務報告	
3.中村正人理事（顕彰担当）職務報告	P.24-27
4.古村理事（総務担当）職務報告	P.28-29
5.北理事（財務担当）職務報告	
6.倉本理事（ジャーナル担当）職務報告	P.30-31
7.浜野理事（大会運営担当）職務報告	P.32-35 別添資料あり
8.グローバル戦略委員会活動報告	P.36-45
9.ダイバーシティ推進委員会活動報告	P.46
10.教育検討委員会活動報告	P.47
11.その他	

その他の資料

	規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	別添

公益社団法人日本地球惑星科学連合
平成 29 年度第 2 回理事会議事録

1. 開催日時　平成 29 年 7 月 21 日（金）
　　15 時 00 分から 18 時 00 分

2. 開催場所　東京大学理学部 3 号館 320 号室
（東京都文京区弥生 2-11-16）

3. 出席者　理事数　20 名
　　出席理事　　16 名　（定足数 11 名　会議成立）
　　出席監事　　3 名
　　オブザーバー　　15 名

4. 議長　　理事　川幡　穂高

5. 出席役員
　　理事　川幡　穂高
　　理事　津田　敏隆
　　理事　田近　英一
　　理事　中村　正人
　　理事　古村　孝志
　　理事　ウォリス サイモン
　　理事　小口　高
　　理事　北　和之（ZOOM 出席）
　　理事　木村　学
　　理事　倉本　圭（ZOOM 出席）
　　理事　瀧上　豊
　　理事　西　弘嗣
　　理事　浜野　洋三
　　理事　原田　尚美
　　理事　日比谷　紀之
　　理事　道林 克禎
　　監事　北里 洋
　　監事　鈴木　善和
　　監事　氷見山　幸夫

6. 出席オブザーバー
　　宇宙惑星科学セクションボードプレジデント　高橋 幸弘（ZOOM 出席）

大気水圏科学セクションプレジデント　蒲生 俊敬
大気水圏科学セクションバイスプレジデント　杉田 倫明（ZOOM 出席）
大気水圏科学セクションバイスプレジデント　佐藤 薫
大気水圏科学セクション幹事　川合 義美
地球人間圏科学セクションプレジデント　春山　成子
固体地球科学セクションプレジデント　大谷 栄治
固体地球科学セクションバイスプレジデント　田中　聡
地球生命科学セクションプレジデント　遠藤　一佳
2017 年準備 TF 主査　末廣　潔
学協会長会議幹事会（議長・日本第四紀学会）　小野　昭
学協会長会議幹事会（水文・水資源学会）　渡邉　紹裕
（代理：杉田倫明,ZOOM 出席）
学協会長会議幹事会（日本古生物学会）　真鍋　真
学協会長会議幹事会（地球電磁気・地球惑星圏学会）渡部重十（ZOOM 出席）
学協会長会議幹事会（日本気象学会）　岩崎　俊樹（ZOOM 出席）

15 時 00 分、理事の定数に足る出席を確認後、会長川幡穂高は理事会が成立することを宣言し、第 1 回理事会を開始した。インターネット電話 ZOOM を初めて利用し、遠隔地から参加する北和之理事、倉本圭理事、高橋幸弘宇宙惑星科学セクションプレジデント、杉田 倫明大気水圏科学セクションバイスプレジデント、渡部　重十学協会長会議幹事会委員、岩崎俊樹学協会長会議幹事会委員が審議に参加できることを確認した。

【前回議事録確認】
第 1 回理事会議事録について、確認し、了承された。

7. 審議事項
第 1 号議案　新入会員承認の件
定款第 8 条 2 項の会員の入会の定めに従い、新規入会者の入会を承認した。
今回承認された 2017 年 7 月 20 日 17 時時点の新入会員を含む正会員 7740 名をもって、次回の代議員選挙の選挙人とすることを確認した。

第 2 号議案　選挙管理委員会設置と選挙日程の設定の件
2017 年度選挙管理委員会を設置し、案の通り委員を承認した。また選挙日程を案の通り承認した。

第 3 号議案　日本学術協力財団賛助会員加入の件
日本学術協力財団に賛助会員として加入することを審議し、これを承認した。日本地球惑星科学連合が加入した旨を、参加学協会に向けてお知らせすることとした。

第 4 号議案　地球惑星科学振興西田賞規則改訂の件

地球惑星科学振興西田賞規則の改訂案について、審議した。前々回の理事会において、中村副会長が西田先生のご意見を伺う事となっていたが、本件について先生も賛同されることを確認した。第 2 条 2 項「2 原則として個人とするが、授賞１件につき２名までの連名を認める場合がある。」を削除すること、また第 3 条 2 項「連合の各セクションから１件以上とし、」を削除することを審議した。案の通り承認した。

第 5 号議案　顕彰委員会規則改訂の件

顕彰委員会規則の改訂を審議した。第 5 条（委員の任期）に委員の任期を最大 3 期までとする条文を追加し「第 5 条　委員の任期は２年とし、再任を妨げないが、最大３期までとする。委員長、副委員長についても同様とする。」と改訂すること、また第 6 条として委員長及び副委員長の任期に関し「委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。２　委員長及び副委員長の任期は最大２期とし、再任はしない。」を追加することを審議した。案の通り承認した。

第 6 号議案　大会特別手当規則の制定の件

古村副会長が趣旨説明を行い、大会特別手当規則の制定を審議した。案の通り承認した。

第 7 号議案　2020 年の幕張での AGU との共同開催について

6 月 14 日（水）に開催した経営企画会議では、2020 年及び 2021 年連合大会の開催地と AGU との共同開催に関して様々な観点より詳細に検討した結果を川幡会長が経営企画会議議事録に基づき、丁寧に報告した。この経営企画会議の全会一致の結論について、「2020 年連合大会の会場を幕張メッセおよび東京ベイ幕張ホールとすること」「2020 年大会を AGU との共同開催とすること」を審議の上、承認した。2021 年以降の会場についてはさらに検討を重ねることとした。

8. 報告事項

（1）川幡穂高代表理事職務報告

第 7 号議案でも報告があったように、6 月 14 日（水）に開催した経営企画会議について報告があった。

理事の構成に関する問題についても報告した。これは、理事のうち 1 名が 10 月 1 日付で異動することに伴い、同一機関の理事が理事全体の１/３を超える（7 名となる）ため、内閣府に相議し、法律（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律）に従い、早急に対処する方針を確認した。本件については、すでに異動する理事に相談し、10 月 1 日以前に対処していただくお願いをしているとの報告があった。

（2）田近英一理事（広報普及担当）職務報告

現在 JGL8 月号の編集作業中である。

連合ホームページの障害については、主なページを復旧することで対応している。

また連合ホームページはリニューアル準備中でもあり、現在業者と協議中である。セクショ

ン、委員会ページは現段階でも独立して編集・公開しているが、これもあわせてリニューアルを検討している。
英語化の作業をどのように行うかを、外注も視野に入れて検討している。
なお大会ホームページはこれとは別に例年通り作成予定である。

(3) 中村正人理事（顕彰担当）職務報告

Outstanding Student Presentation Award について報告があった。受賞者を 7 月 10 日のメールニュースおよび連合ホームページにて発表した。

(4) 古村孝志理事（総務担当）職務報告

職員の契約更新時期であるため、契約更新準備をしている。なお昇給規則に基づき、一名の給料を昇給させる。

就業規則の設置を検討中である。月給制への統一、フレックスタイムの導入、退職金制度、育児休暇等、福利厚生の正常化を検討している。これらについて、職員全体との会合を行った。職務内容の確認と見える化と合わせ検討している。今後理事会で議論を続ける。

(5) 北和之理事報告（財務担当）職務報告

JpGU-AGU Joint Meeting 2017 の収支について報告があった。財務的にも問題なく大会を終了し、基本的に予定された予算執行内で推移しているとの報告があった。。

寄附金受け入れ状況について報告があった。

(6) 倉本圭理事（ジャーナル担当）職務報告

論文投稿・出版状況について報告があった。順調に投稿受付・出版を行っている。委員会開催状況と議論の内容についても報告があった。また、第 1 回・第 2 回の西田賞受賞者や、JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のコンビーナから推薦があった優秀発表著者へ論文投稿依頼をした旨があった。

(7) 浜野洋三理事（大会運営担当）職務報告

JpGU-AGU Joint Meeting 2017 に関する報告を行った。参加者数、各種セッション、開催イベントなどについて報告があった。大会時会場内で起こった盗難事件について報告があった。

2018 年連合大会準備状況について報告を行った。会期は 2018 年 5 月 20 日より 24 日までの 5 日間である。2017 年 9 月 1 日よりセッション提案受付を開始する。現在、プログラム委員会を組織している最中である。

(8) 大会準備タスクフォース報告

JpGU-AGU Joint Meeting 2017 に関する報告を行った。AGU 側からの参加者は 810 名に上り、世界各国から参加者があった。今大会の 3 年間にわたる準備活動のまとめとしてこれまでの活動内容が報告された。

本タスクフォースは 2017 年大会終了をもって予定通り解散となるが、末廣潔主査を International Program Coordinator（国際コーディネーター）として平成 29 年 7 月 4 日より平成 30 年 3 月 31 日までを任期として委嘱することが会長より報告された。

(9) グローバル戦略委員会活動報告

グローバル戦略委員会の活動報告があった。7月14日（金） に2017年度第1回、また本理事会に先立って21日（金）第2回のグローバル戦略委員会を開催した。
台湾との連携を強化するための活動などについて報告があった。
ICSUに関する情報交換と意見交換を行った。今後グローバル戦略委員会でも検討してゆくとした。
川幡会長より、2040年（長期）、2020年代（中期）、2020年までの短期の国内外の経済・社会状況の推定が説明された。日本地球惑星科学連合理事会では、これまで、科学については「夢ロードマップ」などで具体的な議論がされてきたが，経済なども含めた社会に対応した中長期のビジョンは議論されてこなかった．しかしながら，オリンピック後には各種指標が急速に変化するが現在予想されている．そのため，中長期計画を議論する前提として、皆で情報の共有をすることが、まず必要との観点より、経済・社会状況の大枠についての具体的数字の資料が提供された。

(10)情報システム委員会活動報告

JpGU-AGU Joint Meeting 2017でのオープンサイエンスセッションの開催報告があった。国際的なレベルの活発な議論があり、盛況であった旨報告された。

(11) 環境災害対策委員会活動報告

11月26日に宮城県仙台市仙台国際センターで開催される防災推進国民大会へ参加する予定であることが紹介され、その準備報告があった。連合がメンバーである防災学術連携体と学術会議が主催する２セッションに参加する。「衛星情報・地理情報を防災に生かそう（仮）」でのディスカッションのパネリストは高橋セクションプレジデントが務める。別のセッション「衛星情報・地理情報と防災イノベーション（仮）」のパネリストを募集しているので、推薦をお願いしたい。またポスター展示へも参加を予定している。

(12) 教育検討委員会活動報告

学協会長会議から提案があった、教育関連ワークショップの開催について検討した。提案のように大会時に開催するのは難しいため、夏季休暇を利用したものを検討している。ホームページを利用した情報公開も検討している。

教員免許更新講習の受付状況について報告があった。4講習を開設しているが、予定よりも応募者が多い状況がある。

小委員会の活動についても説明があった。

また、平成33年度から大学センター入試に代わる共通試験が導入される件についても情報を収集している旨報告があった。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。（18 時 00 分）
以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成し、出席役員は次に記名・押印する。（捺印欄配布時省略）

平成 29 年 7 月 21 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合　第 2 回理事会

出席理事　川幡　穂高　印

出席理事　津田　敏隆　印

出席理事　田近　英一　印

出席理事　中村　正人　印

出席理事　古村　孝志　印

出席理事　ウォリス サイモン印

出席理事　小口　高　印

出席理事　北　和之　印

出席理事　木村　学　印

出席理事　倉本　圭　印

出席理事　瀧上　豊　印

出席理事　西　弘嗣　印

出席理事　浜野　洋三　印

出席理事　原田　尚美　印

出席理事　日比谷　紀之　印

出席理事　道林　克禎　印

出席監事　北里　洋　印

出席監事　　鈴木　　善和　印

出席監事　　氷見山　　幸夫　印

平成 29 年 7 月～平成 29 年 9 月度　入会会員

個人情報の為非公開とする

平成29年度会員数推移

	正会員						准会員						大会会員				AGU会員			
	入会	変更(+)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	変更(-)	退会(-)	喪失(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数	入会	退会(-)	削除(-)	現会員数
3月末						8115						663				703				1238
4月	126	49			1	8289	65	49			2	677	70			773	16			1254
5月	226	43	2		7	8549	310	43				944	400			1173	42			1296
6月	5	3		810	4	7743	1	3			6	936	0			1173	2			1298
7月	4		6			7741	1		2			935	0			1173	4			1302
8月	3		4		3	7737	0					935			1164	9	15		1	1316
9月	2					7739	0					935	7		2	14	9		3	1322
10月																				
11月																				
12月																				
1月																				
2月																				
3月																				
	366	95	12	810	15	7739	377	95	2	0	8	935	477	0	1166	14	88	0	4	1322

正会員	准会員	大会会員	AGU会員
2017/9/28 7739 名	935 名	14 名	1322 名

変更
准会員から正会員へ

	団体会員			賛助会員		
	入会	退会	現会員数	入会	退会	現会員数
3月末			50			6
4月			50			6
5月			50			6
6月			50			6
7月			50			6
8月			50			6
9月			50			6
10月						
11月						
12月						
1月						
2月						
3月						
	0	0	50	0	0	6

全会員

3月末	10,719 名
4月	10,993 名
5月	11,962 名
6月	11,150 名
7月	11,151 名
8月	9,997 名
9月	10,010 名
10月	名
11月	名
12月	名
1月	名
2月	名
3月	名

セクションプレジデント選挙規則

2013 年 12 月 19 日制定

（趣旨）

第1条　この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合セクションプレジデント選挙に関する事項について定めるものとする。

（細則への委任）

第2条　セクションプレジデント選挙に関する事項は、この規則によるほか、セクションプレジデント選挙実施細則の定めるところによる。

（選挙権及び被選挙権）

第3条　セクションプレジデントの任期開始時をその任期に含む代議員として選出された者は、セクションプレジデント選挙の被選挙権を有する。

２　選挙公示日の前日において正会員である者は、その時点での「主たるセクション」においてセクションプレジデント選挙の選挙権を有する。

（立候補等）

第4条　被選挙権を有する者は、立候補届出書を選挙管理委員会に提出し、候補者となることができる。

2 正会員は、被選挙権を有する代議員を候補者として推薦届出書を候補者の承諾書とともに選挙管理委員会に提出することにより、候補者を推薦することができる。

3 候補者は立候補と重複して推薦を受けた場合、立候補と推薦のいずれかの区分を選択するものとする。

3 同一の候補者に対して複数の推薦が合った場合、候補者はいずれかの推薦を選択するものとする。

（候補の辞退）

第5条　候補者となった者は、投票開始日の前日から起算して 7 日前までに、候補者辞退届けを選挙管理委員会に提出することにより、候補者を辞退することができる。

（投票の方法）

第6条　選挙は投票により行なう。

（選挙の実施時期）

第7条　セクションプレジデント選挙の実施時期は、理事会が決定する。

（選挙公示）

第8条　選挙管理委員会は、前条の実施時期の決定に基づき選挙公示を行う。

（選挙結果の報告）

第9条　選挙管理委員会は、選挙結果を社員総会及び正会員に報告する。

PEPS編集委員（2017/9/29） 69名：日本人編集委員39、外国人編集委員30人

		Name	Affiliation	Section	Science Society
	1	井龍康文	東北大学大学院理学研究科地学専攻	5. Biogeoscience	地球生命科学
		Name	Affiliation		Science Society
	2	川幡穂高	東京大学大気海洋研究所	5. Biogeoscience	日本地球化学会
	3	吉岡祥一	神戸大学　都市安全研究センター	4. Solid earth scier	日本地震学会
	4	佐藤正樹	東京大学大気海洋研究所	2. Atmospheric an	大気水圏科学
	5	多田隆治	東京大学大学院理学系研究科	6. Interdisciplinary	大気水圏科学
	6	松本淳	首都大学東京大学院都市環境科学研究科	3. Human geoscie	地球人間圏科学
	7	倉本 圭	北海道大学大学院理学院宇宙理学専攻	1. Space and plan	宇宙惑星科学
		Name	Affiliation		Science Society
	8	Lin-Ni Hau	Institute of Space Science, Department of Physics, Nationa	1. Space and plan	Space and Planetary Sciences
	9	Noriko Kita	Department of Geoscience, University of Wisconsin-Madis	1. Space and plan	Space and Planetary Sciences
	10	Patrick Michel	Observatoire de la Cote D'Azur, France	1. Space and plan	Space and Planetary Sciences
	11	大竹真紀子	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究本部	1. Space and plan	日本惑星科学会
	12	長妻　努	情報通信研究機構	1. Space and plan	地球電磁気・地球惑星圏学会
	13	山本　衛	京都大学 生存圏研究所	1. Space and plan	地球電磁気・地球惑星圏学会
	14	Chung-Hsiung Sui	Department of Atmospheric Sciences, National Taiwan Un	2. Atmospheric an	Atmospheric and Hydrospheric Scie
	15	John P. Burrows	Institute of Environmental Physics and Remote Sensing IU	2. Atmospheric an	Atmospheric and Hydrospheric Scie
	16	Kevin Hamilton	Department of Meteorology and International Pacific Rese	2. Atmospheric an	Atmospheric and Hydrospheric Scie
	17	Mark Green	Center for the Environment, Plymouth State University, US	2. Atmospheric an	Atmospheric and Hydrospheric Scie
	18	池原 研	産業技術総合研究所地質情報研究部門	2. Atmospheric an	日本第四紀学会
	19	井上源喜	大妻女子大学社会情報学部	2. Atmospheric an	日本温泉科学会
	20	大手信人	京都大学大学院情報学研究科社会情報学専攻	2. Atmospheric an	水文・水資源学会
	21	金谷有剛	海洋研究開発機構地球環境変動領域	2. Atmospheric an	大気化学研究会
	22	兒玉裕二	国立極地研究所	2. Atmospheric an	日本雪氷学会
	23	竹内 真司	日本大学文理学部地球科学科	2. Atmospheric and hydrospheric sciences	
	24	早坂　忠裕	東北大学大気海洋変動観測研究センター	2. Atmospheric an	大気水圏科学
	25	日比谷紀之	東京大学大学院理学系研究科	2. Atmospheric an	日本海洋学会
	26	三浦裕亮	東京大学大学院理学系研究科	2. Atmospheric an	大気水圏科学
	27	芳村　圭	東京大学生産技術研究所	2. Atmospheric an	日本水文水資源学会
	28	Eduardo de Mulder	Earth Science Matters Foundation	3. Human geoscie	Human Geosciences
	29	Junko Habu	Anthropology Department, University of California, Berkele	3. Human geoscie	Cross-section
	30	Mike Meadows	Department of Environmental & Geographical Science, So	3. Human geoscie	Human Geosciences
	31	Nigel Tapper	School of Geography and Environmental Sciences, Monas	3. Human geoscie	Human Geosciences
	32	R.B.Singh	Department of Geography, University of Delhi, India	3. Human geoscie	Human Geosciences
	33	Yuei-An Liou	Center for Space and Remote Sensing Research,	3. Human geoscie	Human Geosciences
	34	菊地 俊夫	首都大学東京都市環境科学研究科	3. Human geoscie	東京地学協会
	35	千木良雅弘	京都大学防災研究所	3. Human geoscie	地球人間圏科学
	36	早川 裕弐	東京大学 空間情報科学研究センター	3. Human geosciences	
	37	村山 祐司	筑波大学大学院生命環境科学研究科	3. Human geoscie	地理情報システム学会
	38	Bjorn Mysen	Geophysical Laboratory, Carnegie Institute of Washington,	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	39	Chen Ji	Department of Earth Science, University of California, San	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	40	Colin J.N. Wilson	School of Geography, Environment and Earth Sciences , V	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	41	Craig R. Bina	Dept. of Earth and Planetary Sciences, Weinberg College	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	42	Fenglinllin Niu	Department of Earth Science, Rice University	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	43	Frances Cooper	School of Earth Sciences, University of Bristol, United King	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	44	J. Casey Moore	University of California, Santa Cruz, USA	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	45	James B. Gill	Environmental Studies Department, University of California	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	46	Mike Coffin	University of Tasmania, Australia	4. Solid earth scier	
	47	Paul Tackley	Department of Earth Sciences, ETH Zurich Institute fuer G	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	48	Peter Van Keken	Department of Terrestrial Magnetism Carnegie Institution c	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	49	Shun-ichiro Karato	Department of Geology & Geophysics, Yale University, US	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	50	Toshiro Tanimoto	Department of Earth Science, University of California, San	4. Solid earth scier	Solid Earth Sciences
	51	大谷栄治	東北大学大学院理学研究科地学専攻	4. Solid earth scier	日本鉱物科学会
	52	加藤照之	東京大学地震研究所	4. Solid earth scier	日本測地学会
	53	川勝均	東京大学地震研究所	4. Solid earth scier	日本地震学会
	54	サイモン・ウォリス	名古屋大学大学院環境学研究科	4. Solid earth scier	日本地質学会
	55	渋谷和雄	国立極地研究所	4. Solid earth scier	日本測地学会
	56	清水久芳	東京大学地震研究所	4. Solid earth scier	地球電磁気・地球惑星圏学会
	57	中田節也	東京大学地震研究所	4. Solid earth scier	日本火山学会
	58	平島崇男	京都大学大学院理学研究科	4. Solid earth scier	日本鉱物科学会
	59	三ケ田　均	京都大学	4. Solid earth scier	物理探査学会
	60	宮内崇裕	千葉大学大学院理学研究科	4. Solid earth scier	日本活断層学会
	61	八木 勇治	筑波大学生命環境系	4. Solid earth scier	日本地震学会
	62	渡辺 寧	秋田大学 国際資源学部	4. Solid earth scier	資源地質学会
	63	Heiko Palike	Centre for Marine Environmental Sciences, Bremen Unive	5. Biogeoscience	Cross-section
	64	Joseph Kirschvink	California Technology University, USA	5. Biogeoscience	Biogeosciences
*	65	Mark Lever	ETH Zürich	5. Biogeoscience	
	66	遠藤 一佳	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻	5. Biogeoscience	日本古生物学会
	67	掛川 武	東北大学大学院理学研究科地学専攻	5. Biogeoscience	
	68	小林憲正	横浜国立大学大学院工学研究院	5. Biogeoscience	日本宇宙生物科学会
*	69	高野 淑識	海洋研究開発機構	5. Biogeoscience	

広報普及委員会規則案

（趣旨）

第1条　この規則は、定款及び法人運営基本規則に基づき、広報普及委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第2条　広報普及委員会は、本法人の広報及び普及活動を担当し、本法人の活動内容を内外に広く知らせ、円滑な法人運営を図るとともに、会員相互間の意志疎通及び情報交換の場を提供する。また、一般社会に対する研究成果の普及活動を通して地球惑星科学の発展に寄与する活動を支援する。

2 広報普及委員会は、第 1 項の活動に必要な事項について審議を行い、その結果を理事会に報告する。また、広報普及活動に関し、理事会の諮問に応じ、又は理事会に意見を述べる。

（委員会の下に置く組織）

第3条　広報普及委員会のもとに、ＪＧＬ編集小委員会およびパブリックセッション小委員会を置く。

（委員の任期）

第4条　委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

（委員長及び副委員長の任期）

第5条　委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。

附則

（1）本規則は、この法人の設立の登記の日に遡って適用されるものとする。

（2）平成 29 年 9 月 29 日理事会改正

パブリックセッション小委員会規則（内規）案

（趣旨）

第6条　この規則は、法人運営基本規則に基づき、パブリックセッション小委員会に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第7条　本小委員会は、以下の各号に掲げる業務を担当する。

（1）プログラム小委員会の要請に基づき、連合大会におけるパブリックセッションの採択に関して意見を述べる。

（2）広報普及委員会が主催もしくは共催するパブリックセッションの準備および実施を行う。

（3）パブリックセッション全体の準備および実施を統括する。

（4）その他、広報普及委員会の要請に基づき、広報普及に関連する業務を担当する。

（構成）

第8条　本小委員会委員は広報普及委員会が選任する。

（委員の任期）

第9条　本小委員会委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

（委員長及び副委員長の任期）

第10条　本小委員長及び副小委員長の任期は、委員の任期による。

パブリックセッション小委員会委員

No.		氏名	所属
1	委員長	原辰彦	建築研究所国際地震工学センター
2	副委員長	宮本英昭	東京大学
3		道林克禎	静岡大学理学部地球科学科
4		成瀬元	京都大学大学院理学研究科
5		瀧上豊	関東学園大学
6		飯田佑輔	関西学院大学
7		高橋幸弘	北海道大学大学院理学院
8		関根康人	東京大学大学院理学系研究科
9		久利美和	東北大学災害科学国際研究所

1　国際情報発信強化の取組の概要

本欄には、取組内容の特徴と目的、意義及び方法について、今回の取組における新たな点を、これまで行ってきた取組を踏まえつつ具体的に記述してください。図表を用いる等して記述しても構いません。前年度以前に採択された実績がある場合には、当該補助事業においてどのような取組をしたか及び今回の取組との相違点について併せて具体的かつ明確に記述してください。

日本地球惑星科学連合（JpGU）は，2011 年に公益社団法人となり，地学系 50 学協会と例年 5 月に千葉県幕張メッセにおいて合同で学術大会を開催し，本年で 27 周年となる．2017 年の全参加人数は 8,148 名，科学発表は 5,562，学生参加者が 33%を占めるなど若手の成長促進も含めて健全に発展してきた．JpGU は，本分野での AGU（American Geophysical Union: 米国地球物理連合），EGU（European Geosciences Union: ヨーロッパ地球科学連合）に次ぐ規模となっている．

JpGU は 50 学協会と共同で，2014 年 4 月にオープン・アクセス（OA）英文電子ジャーナル「Progress of Earth and Planetary Science（愛称，「PEPS」）」を創刊し，2017 年 9 月までに 130 論文を出版した． Springer-Nature 社をパートナーとし「PEPS」が世界の一極雑誌となるよう出版を推進してきた．Sweden ルンド大学の Directory of Open Access Journals，国会図書館，JST 文献 DB にすでに登録された．Thomson Reuter 社による Emerging Source Citation Index に 2015 年に登録され，次段階の Web of Science (WOS) に採録申請した（2016 年 8 月）．同年 11 月に米国フィラデルフィア同本社を訪問し，「PEPS」を直接アピールしたが，同社の WOS を扱う部門が Clarivate Analytics 社に買収された影響で，審査が遅れ，現在決定を待っている．SCOPUS への登録申請も 2016 年 9 月に行った．

JpGU は AGU, EGU, AOGS（パートナーとして，アジア・オセアニア地球科学協会）と MOU 協定を結び，協力関係を発展してきたが，JpGU が世界の重要な科学情報発信のプレーヤーを務めるには，「PEPS」を一流のジャーナルとして確立することが必須である．JpGU の活動の一環として，EGU, AGU などの年会や国際学会時に広報・投稿促進活動を実施し，「PEPS」を世界に売り出してきた．出版事業は，ジャーナル経営企画委員会と編集委員会により公正に運営され，JpGU 理事会の活動とも密接にリンクしてきた．国際情報発信を強化するため，AGU とは毎年共同セッションを開催している．特に，2017 年には JpGU-AGU 共同大会を開催し，1,000 人を上回る海外からの研究発表があり，「PEPS」の認知度も高まった．

JpGU と 50 学協会が共同出版する「PEPS」は，①地球惑星科学における世界の一極を担える OA 電子英文ジャーナルで，②連合大会の多角的・統合的な成果の発表の中から優秀な発表を文字媒体としたもの，③海外からの質の高い原稿などの特徴ある論文を掲載してきた．これらを促進するため，④セッションに参加する海外からの基調講演者，著名講演者の招聘支援を行うジャーナル国際特別セッション，⑤JpGU の中堅研究者表彰制度の受賞者への投稿依頼，⑥コンビーナー推薦を通じた優れた論文の投稿促進，⑦SPEPS（開放型特集号=SPecialcall for Excellent Papers on hot topicS）の企画推進を実施してきた．

JpGU のような学協会連合体がジャーナルを発刊する意義は，「日本のコミュニティとして学問の自由・独立を確立すること」で，コミュニティの評価と直結する世界的に影響力のあるジャーナルの発行は重要である．インパクトファクター（IF）などジャーナル評価指標の採択が決まり次第，新たな宣伝戦略を講じるとともに，編集体制の強化．APC（投稿出版料）の改訂と出版経費の見直しを行い，最終的に日本学術振興会の補助なしに「独り立ち」できるまで成長したいと計画している．今後の数値目標については，⑧Review article のさらなる充実（目標を 20～30%），⑨地球惑星科学分野の一流誌のレベルである IF 3.0 以上の獲得，⑩分野別トップ 10%以内の評価，⑪オープンサイエンスにも対応した，「Paper with Full Data Attached」の投稿カテゴリーの創出，⑫年間総出版数 200 以上の目標をクリアし，この分野で世界のトップクラスのジャーナルの一角を担う予定である．

２　国際情報発信強化の取組の目標・評価指標

本欄には、国際情報発信強化に係る取組の全体構想及び具体的な目標設定について、冒頭に１０行程度でその概要を簡潔にまとめて記述してください。特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述してください。
①　応募時点での学会の国際情報発信の現状。
②　助成期間内に何をどこまで強化しようとするのか。
上記について、助成期間の３年目の中間評価時、終了時のそれぞれの評価指標を含め具体的な目標を設定し、数値等で表わせるものについてはその数値も併せて記述してください。

（概要）

オープアクセス(OA)である英文電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science(愛称, PEPS)」をさらに発展させるため，一流誌のレベルに達している発表論文へのアクセス総数や PDF ダウンロード総数をさらに増やすとともに，インパクトファクター（IF）の早期取得に全力を挙げる．5 年後には AGU, EGU の一流ジャーナルと同等の IF3.0～3.3 を目標とする．The best article など「PEPS」の論文に直接関連した顕彰制度を充実させる．「PEPS」の特徴であるレヴュー(総論)論文の出版促進のみならず，海外からの投稿数を増加させるために海外の研究者を編集長を迎え，海外の編集委員の就任を促進する．オープンサイエンスにも対応するよう「Paper with Full Data Attached」を創設し，JpGU-AGU 共同開催など海外の学会との共同開催を通じて，国際情報発信強化を総合的に推進する．

（詳細）

(1) 応募時点での学会の国際情報発信の現状

①OA 英文電子ジャーナル「PEPS」を 2014 年に創刊し，定期刊行している．②通常の論文とともにレヴュー論文（>20%）にも重点を置いているのが特徴である．③現在登録申請をしている IF は未取得で．論文アクセス総数約 11 万件，PDF ダウンロード総数約 7 万件（確認中）は当分野の世界の一流誌のレベルに達している．④1 論文あたりの被引用数の暫定的計算 IF 値は 2.4 で，現時点では数より質を重視したポリシーを貫いている．⑤IF 取得後は，出版数を増加させ，さらに高い数値目標を達成させる．⑥年会や各種国際学会時に，国内外の著名研究者に「PEPS」への投稿を促進する施策を実施し，海外からの投稿も増加している．

(2) 助成期間内に何をどこまで強化しようとするのか（3 年目の中間評価時，終了時に分けて具体的に記述）

①OA 電子ジャーナル「PEPS」を継続的に発展させるためにも，IF の早期取得に全力を挙げる．②PEPS の特徴であるレヴュー論文については，掲載論文数の 20～30%という数値目標を継続する．大学のゼミの教材としても使用できるよう，普及に努める．③アクセス総数や PDF ダウンロード総数を中間評価の時点で倍に，終了時には 5 倍程度に引き上げる，④IF 取得時で 2.7～3.0，5 年後に AGU, EGU の一流ジャーナルに並ぶ 3.0～3.3 を目標とする．⑤IF 取得後，出版を増加させ，中間評価時で年間 100 編，終了時で 150 編の出版を目指す．⑥外国人編集委員の 20%以上増員を行う．IF 取得後は海外研究者の編集長を迎え，海外からの投稿を促進する．⑦The best article など「PEPS」の論文に直接関連した顕彰制度を充実させる．⑧論文の関連データも出版できる論文カテゴリー「Paper with Full Data Attached」を創設し，次世代のオープンサイエンスにも対応する．⑨著者の出身国を中間評価の時点で 40，終了時には 50 ケ国を目標とし，「PEPS」が全世界から認知される雑誌となるよう広報・宣伝活動を強化する．⑩JpGU-AGU 共同開催（ 2017，2020 年）など，海外の学会との年会の共同開催，シンポジウム共同開催などを通じて，年会と出版事業をリンクさせて，効率的に「海外への情報発信」を加速させる．⑪中間評価時までに東南アジアの学会連合と MOU を結び，シンポジウムの共同開催を行なう．アジア地域での経済発展の著しい地域での研究者は将来「PEPS」への潜在的投稿者として広報活動を行う．

３　国際情報発信強化の取組の実施計画・方法

本欄には、国際情報発信強化の目標を達成するための取組内容について、具体的に各年度の実施計画・方法を記述してください。図表を用いる等して記述しても構いません。
また、刊行体制を強化する等の取組を行う場合については、全体像を明らかにするため、組織図を用いて、必要に応じ役割や員数を記述する等、具体的に記述してください。
なお、複数の学術団体等で協力体制をとって国際情報発信強化を行うための取組を行う場合は、協力団体の数、それぞれの団体名、どのような協力体制をとって行うか役割等も含め、具体的に記述してください。

【平成 30 年度/2018 年（1 年目）】
＊インパクトファクター（IF）の早期取得に全力を挙げる（2017 年には，2013 年申請ジャーナルが WOS に採用されている）．採用決定後―IF 取得までは「PEPS」が一流誌となるための最重要期間で．外国人編集委員を増員するなど編集体制を補強する．取得以前でも IF を計算できるので，その値を JpGU の HP に表示し．効果的に質の高い原稿の「PEPS」への投稿を促す．
＜IF 取得雑誌に決定された後＞＊出版数の顕著な増加を目指す．＊AGU, EGU などの海外向けニュースや国内学会誌に「PEPS の WOS 採用」を周知し，投稿呼びかけの大キャンペーンを行なう．＊海外の研究者も含む依頼原稿，JpGU 連合大会の優秀発表論文については掲載料の補助を継続する．OA 電子ジャーナルなので，読者は無料ダウンロードできる．＊「The best article」など「PEPS」に直接関連した顕彰制度を充実させる．＊「Paper with Full Data Attached」等，新規取り組みに挑戦する．これは「オープンサイエンス」ともリンクし，「面的，時系列データの効率的活用」を目指す．＊JpGU 参加5学会が共同で出版してきた Letter 重視の EPS 誌（Earth Planets Space）と広報，運営委員会などを協力して行う．
【平成 31 年度/2019 年（2 年目）】基本的に前年度の施策を継続する．
【平成 32 年度/2020 年（3 年目）】＜IF 取得雑後＞＊この段階で「PEPS」は，海外の一流雑誌と対等に競争できるステージに移行したと考える．＊総編集長の一人を海外研究者とするなど編集体制の刷新を行い，海外からの投稿を促進する．著者負担額の見直しを行ない，「独り立ちへの第一歩」を試みる．
＊2020 年には，JpGU-AGU 共同大会を開催予定で，1,000 人以上の海外からの研究者の参加も見込まれ，年会と出版事業をリンクさせ，効率的に海外への情報発信を行う．中評価の段階では，論文へのアクセス総数，PDF ダウンロード総数が現在の倍となるよう広報を拡大し，年間 100 編の出版を目指す．
【平成 33 年度/2021 年（4 年目）】
【複数の学術団体等による協力体制】EPS 誌とは，JpGU との出版プラットフォームを統一し，海外情報発信能力を強化するため，2022 年 1 月から JpGU レター重視誌として，コミュニティとしても発展を支えられるよう共同出版を開始する．
【平成 34 年度/2022 年（5 年目）】＊科研費による著者負担額の減額（補助）の最終年度となる．当該年度までに，この分野で世界に流通するジャーナルの中でもトップクラスの一極を担い，日本学術振興会の補助なしに「独り立ち」できるよう，十分高い IF の取得できるレベルに「PEPS」の質を上げるとともに，引用度数と投稿論文数に基づき，著者負担額の見直しを行ない，「独り立ちへの第二歩」となるよう施策を実施する．＊本科研費の終了時に，著者の出身国 50 ケ国を目標とし，論文へのアクセス総数，PDF ダウンロード総数が現在の 5 倍となるよう広報を拡大し，年間 150 編の出版を目指す．

４　新たな取組の準備状況

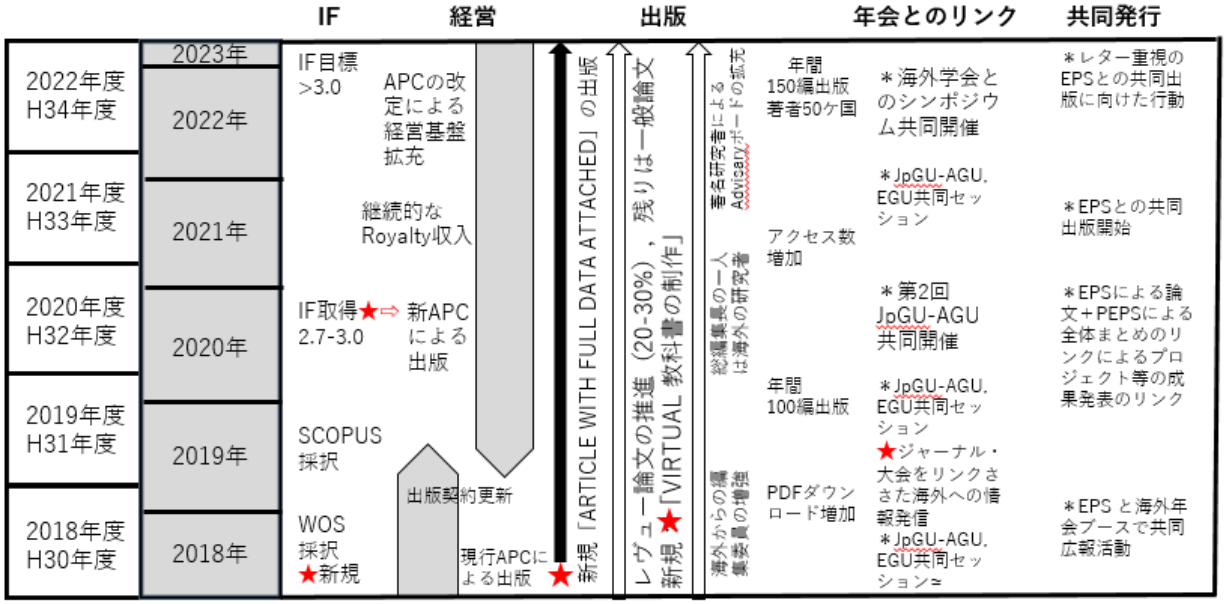
本欄には、新たな取組の準備状況を具体的に記述してください。
複数の学術団体等で協力体制を新たにとって行う場合は、協力体制の準備状況も記述してください。

(1)＜IF 採用雑誌＞【早急なインパクトファクター（IF）取得】現在，Thomson Reuter 社が 2015 年に新設した Emerging Source Citation Index に即座に登録され，WOS 登録申請（IF 取得用）を 2016 年 8 月に行った．現在 IF 計算値は 2.4 となっている．
【決定通知後の対策】①採用決定後は，暫定 IF 値を自分達で計算し，その値を JpGU の HP に掲示し，効果的に「PEPS」への質の高い原稿の投稿を促す．②外国人編集委員を増員するなど編集体制を補強する．③ 特に，被引用数の多い研究者やグループに対し「PEPS」への投稿を強く依頼する方針で，すでにリストは作成済みである．④SCOPUS へも登録申請を 2016 年 9 月に行い，現在決定を待っている．審査委員会に催促し，早期登録を目指す．
(2)＜「Paper with Full Data Attached」の創設＞これは，科学的な新発見と大量の関連データを併せて発表する論文形態である．公表されずに死蔵されている周辺データの活用と「贋作」や「盗用」の抑止機能がある．「PEPS」では，１）広域，長時間の時系列など新たな科学的付加価値が高まるようなデータセット，２）SPEPS（開放型特集号）=SPecialcall for Excellent Papers on hot topicS，や大型プロジェクトの論文出版と並行した関連データを特に推奨して扱うことで，「PEPS」の科学的情報発信力を強化する．このような出版は，世界的な「現代的データペーパー」の思想に近く，G7 や NSF，EU Horizon2020 などでのオープンサイエンスの方向性と合致しており，JpGU のような連合体が率先して先進的な学術成果発信の取り組みを開始することはコミュニティとして重要であると考える．
(3)＜レヴュー論文と virtual 冊子＞「PEPS」の特徴であるレヴュー論文の新たな用途の開拓を行う．大学のゼミなどで「BOOK より最新の体系的な知識」が期待できる分野別教材として，OA ジャーナルの特徴を活かし Key words 毎の「virtual 冊子」を HP に掲載する．
(4)＜特に海外の学会との協力を媒体とした年会とジャーナルのリンケージ＞年会開催と出版事業は，JpGU の 2 つの中核的活動であるが，両者をリンクさせ，効率的な「海外への情報発信」を行う．特に，2020 年の 2 度目の JpGU-AGU 共同大会開催では，千人以上の海外からの参加も期待できるので，成果発表の「PEPS」への投稿を促す．JpGU と MOU を結ぶ学会と海外でのシンポジウムの共同開催を行う予定である．特に，アジア地域での経済発展の著しい地域での研究者は，「PEPS」への潜在的投稿者なので，将来を見越して広報活動を行う．
(5)＜兄弟ジャーナルの効率的な出版促進＞EPS は JpGU 参加 5 学会の LETTER 重視ジャーナルである．2021 年より JpGU も加わり共同出版に発展させる．例えば，巨大地震の速報は「EPS」で，その分野の全般的理解や新たな知見の位置づけなどはレヴュー論文が特徴の「PEPS」で刊行するなど，地球惑星科学コミュニティ全体が，兄弟ジャーナルを効率よく支えられるような体制を構築する．EPS を，宇宙惑星科学・固体地球科学をカバーする，Letter 重視誌のパイロットケースとして発展させるとともに，大気水圏科学・地球人間圏科学・地球生命科学を扱う Letter 重視誌を関連学会と共同発行できるか，検討を始める．
(6)＜自立への方策＞高い IF が得られた段階では，経済的に自立した出版活動を行いたい．連合大会に参加し，成果を「PEPS」に出版する場合には APC の割引を行う．大会での「最先端」の発表を，文字媒体での「PEPS」への論文の発表を促す．一方， PEPS での論文出版のみで，連合大会に不参加の場合には，海外の同等の IF の OA 電子ジャーナルの APC に設定する．このビジネスモデルでは，当該分野における一流誌と同等の IF を確立することが必須となる．目的達成するため，あらゆる可能な方策を実施する．

５　重複応募をしている取組内容との相違点

本欄には、Web 入力画面の重複応募の有無で「有」を選択した場合、一つの学術団体等もしくは複数の学術団体等で協力体制をとる団体等として、本応募の取組内容が重複応募した取組内容とどのように違うのか、具体的かつ明確に記述してください。（公募要領１５頁「（4）重複応募の制限」参照）
また、「国際情報発信強化」の継続事業課題のある場合は、本応募の取組内容との関係を具体的かつ明確に記述してください。なお、該当しない場合（重複応募「無」の場合）は、「該当なし」と記述してください。

＜本申請は重複応募には該当しません＞



＜自立への方策＞

科研費の 2023 年度分を試算した案.
Springer との契約が現状の出版料として計算.

出版論文数は，合計 200 本.
1）　過去 5 年間連合大会に 3 回以上参加した人の投稿,
2）　過去 5 年間連合大会に 2 回以下参加した人の投稿
3）大会に参加せず，投稿した場合の投稿（主に海外研究者と思われる）

APC は下記に設定しました:
　会員 A（過去5年間連合大会に 3 回以上参加）:800€,¥104000（100 本）--￥10,400,000
　会員 B（過去5年間連合大会参加に 2 回以下）:1500€,¥195000（30 本）--￥5,850,000
　非会員 :2500€,¥325000（70 本）---　￥22,750,000
収入合計　3,900.0000 円

支出合計　38,710,0000 円
　Springer-Nature への支払い　24,310,000 円
　その他経費　14,400,000 円

＊実際には Tax が加算されるため、あまり高く設定すると投稿が見込めない可能性もあり上記金額にした.

公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）規則（案）

2017 年9月29日 理事会制定

（趣旨）
第1 条 この規則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合（以下、「連合」という。）が学術賞「公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）」により、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において国際的に高い評価を得ている優れた研究者を表彰する為に必要な事項を定めるものである。本賞の名称は三宅泰雄博士のご提案と寄付金で設立された公益信託地球化学研究基金が事業として実施してきた地球化学研究協会学術賞「三宅賞」に由来する。

（受賞者の要件）
第2 条 受賞者は、地球惑星科学に関わる物質科学の分野において新しい発想によって優れた研究成果を挙げ、国際的に高い評価を得ている個人とする。

（選考・受賞者数）
第3 条 受賞者の選考は隔年で行ない、選考毎に1件を選ぶ。

（推薦）
第4条　候補者は会員・非会員を問わず、自薦または他薦とする。他薦の場合、正会員のみが推薦者となることができる。他薦の場合は推薦者1名が、自薦の場合は本人が、必要事項が記載された推薦書類（任意書式）をもって会長に提出するものとする。推薦書類の必要事項は「公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）」審査委員会（以下、「審査委員会」という。）が別途定める。

2. 推薦書類は、事務局にメールにて送付する事とする。
3. 推薦者は、本人に受賞の意志があることを事前に確認しなければならない。

（審査委員会）
第5 条 理事会は、審査委員会を設置し、推薦された候補者の中から受賞者を選考する。審査委員会に関する規則は別に定める。

（授与）
第6 条 理事会は、審査委員会からの選考結果を受け、受賞者を認定する。会長は表彰式において受賞者に賞状を授与する。

（推薦・審査の実施時期）
第7 条 候補者の推薦及び審査の時期は審査委員会が定める日程をもって行う。

（規定の改廃）
第8 条 この規定の改廃は、理事会の決議を必要とする。

附則
(1) この規則は、2017 年10月1日から施行する。
(2) 本賞の授賞は2018 年度から開始し、以降、隔年（西暦の偶数年度）にて行う。

公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会設置規則（案）

2017 年 9 月 29 日 理事会制定

（趣旨）

第１条　この細則は、公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）規則に基づき、公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）規則審査委員会（以下、「審査委員会」と言う。）に関し必要な事項を定めるものとする。

（任務）

第２条　審査委員会は、理事会の要請に基づき、公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）被推薦者の中から受賞者を選考する。

（委員会の組織）

第３条　委員は、委員会全体で 10 名以下とする。

２．委員は理事会の議を経て会長が委嘱する。

３．委員長は互選とし、理事会の議を経て会長が指名する。

（委員会の運営）

第４条　委員長は、必要があると認めるときは委員会を招集し、その議長となる。

２．委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。可否同数のときは議長の採決するところによる。

３．前項の場合において、議長は委員として評決に加わることはできない。

（委員の任期）

第５条　委員の任期は審査年度を含む 2 年間とし、再任は最初の審査開始から最大４年までとする。

（委員名の公表）

第６条　委員名は、受賞者が決定した時点でこれを公表する。

（委員の制約）

第７条　委員は推薦者になることはできない。

（秘守義務）

第８条　委員は、被推薦者および推薦者に関する情報を委員会の外に出してはならない。

附則

（１）この規則は、2017 年 10 月 1 日から施行する。

日本地球惑星科学連合　大会開催会場

開催期間	開催会場
2014年4月28日（日）～5月2日（木）	パシフィコ横浜　会議センター
2015年5月24日（日）～5月28日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
2016年5月22日（日）～5月26日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
2017年5月20日（土）～5月25日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
＜予定＞2018年5月20日（日）～5月24日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
＜予定＞2019年5月26日（日）～5月30日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
＜予定＞2020年5月24日（日）～5月28日（木）	幕張メッセ　国際会議場、展示場、東京ベイ幕張ホール
＜予定＞2021年5月30日（日）～6月3日（木）	パシフィコ横浜　新館

2018年度日本地球惑星科学連合フェロー候補者推薦募集について

公益社団法人日本地球惑星科学連合は2017年度公益社団法人日本地球惑星科学連合フェロー（以下フェロー）の候補者を募集いたします.

日本地球惑星科学連合フェロー制度は，地球惑星科学において顕著な功績を挙げた方を高く評価し，名誉あるフェローとして処遇することを目的として設置されたものです．（関連規約はこちら）
フェローは推薦者により推薦され，会長の諮問委員会であるフェロー審査委員会において推挙された方々の中から，理事会において承認された方々とします．　フェローには年齢制限，人数の制限は設けません.

1. JpGU フェローの満たすべき要件

以下のいずれかに該当する方

（１）地球惑星科学研究領域におけるパラダイムシフトやブレークスルーもしくは発見などを中心に、地球惑星科学の学術の発展に著しい貢献をした方

（２）日本の地球惑星科学の発展、あるいは地球惑星科学の知識普及に著しい貢献をした方

2. JpGU フェロー被推薦者
会員・非会員を問いません．ただし，以下の者は推薦の対象となりません.
・JpGU の現職理事・監事・セクションプレジデント
・フェロー審査委員

3. 推薦の様式
JpGU フェローを推薦する方（以下、主たる推薦者とする）は以下の書面をもって JpGU 会長に推薦をしてください.

・被推薦者の個人情報（フォーマットにご記入ください）
　氏名（和文および英文表記），
　所属機関，
　役職（引退後は，これに代わる肩書き）
　住所，
　電話番号，
　メールアドレス

以下については書式は特段定めません.
・被推薦者の履歴（専門分野，研究歴，受賞歴，大学・研究機関・学協会等に於ける貢献）
・主要な論文あるいは特許等，あわせて5編のリストおよびその別刷り（コピー可）
・全論文リスト

・推薦理由書（A4 で 2 ページ以内，日本語あるいは英語)
・主な業績（400 文字以内，日本語あるいは英語）
・一行推薦理由（Short citation，日本語および英語）
　日本語　フォーマット：「（専門分野、領域等への）顕著な貢献により」、文字数：50～80 文字程度
　英語　フォーマット　：「for outstanding contributions to（専門分野、領域等)」、文字数：半角 120～250 文字程度」
　　（参照：フェロー紹介ページ)
・３通のサポートレター（推薦者以外３名による．A4 で１ページ，日本語あるいは英語，連名を可とする）
・主たる推薦者１名の氏名と連絡先（所属機関，住所，電話番号，メールアドレスなど）

4.推薦方法
・提出はワードファイル、およびその PDF 版を当該年度の推薦期間内に連合フェロー担当事務局(jpgu_fellow(at)icloud.com)にメールにて送付してください．但し論文別刷りは PDF のみで結構です.
・ワードファイル、PDF ファイルはそれぞれ 1 ファイルにまとめてください.
・ファイルの大きさは 25Mbyte までにしてください.
・メールの件名は”JpGU フェロー推薦書（候補者氏名)”としてください.
　これ以外の件名で送信した場合、spam メールとして処理されるなど、正しく処理できない恐れがあります.

受領の確認メールが一週間以内に届かない場合は必ずお問い合わせ下さい．受領の確認メールが届いていない場合、推薦が受付されない恐れがあります.
★推薦状送付先アドレス：jpgu_fellow(at)icloud.com

5. JpGU フェローの表彰
・JpGU 連合大会開催時に JpGU フェロー表彰式を開催し，メダル等を進呈します.

6. JpGU フェロー審査委員会
・JpGU フェロー審査委員は理事会の議を経て会長が指名します.
・委員は 5 名とし，任期を 2 年とします．ただし，半数（2 ないし 3 名）を一年毎に改選することとし，最初の委員のうち 2 名は 3 年の任期とします.
・委員は JpGU 会員の中からサイエンスセクションの配分を考慮して選びます.
・委員長は JpGU 会長が指名します.
・委員名は，委員が任期を終え，改選された時点で公表するものとします.

7. 推薦書送付期限：2017 年 12 月 31 日（日）　必着

8. フェロー制度に関するお問い合わせ：担当理事　中村昭子　津田敏隆　中村正人

Regarding the 2018 JpGU Fellowship Program

The Japan Geoscience Union (JpGU) is now accepting recommendations for candidates for the 2018 JpGU Fellowship Program.
Fellowship Program confer fellowship honors upon individuals who have rendered conspicuous contributions to the field of geoscience of Japan. Please refer to regurations (only available in Japanese) to learn more

Fellowship nominees shall be put forward by a recommender. They shall then be recommended from among the nominations reviewed by the JpGU Fellowship Evaluation Committee, it acting as an advisory body to the JpGU Chairman. Successful nominees shall be those from among the recommended nominations who are then approved by the JpGU Board of Directors. There are no restrictions in place with respect to either the age of fellows or the number of fellowships granted.

1. JpGU Fellowship Nominees
   Individuals who have made contributions to the field of geoscience research in Japan by making significant discoveries breakthroughs or paradigm shift, or contributing to the development of Japanese geoscience and the dissemination of geoscientific knowledge.

2. Qualifications that should be met by JpGU Fellows
   It does not matter whether they have JpGU membership or not.
   However, the following persons shall be unable to be nominated.
   Current JpGU Directors, Secretaries, Section Presidents
   Members of the JpGU Fellowships Evaluation Committee

3. Nomination Format
The person who is making a JpGU Fellowship nomination (hereinafter the “principal nominator”) shall do so by sending a written nomination to the JpGU President in which the following information is contained by email.

The name and contact details of the nominee
* Please follow the format.
Their affiliated institution,
Post(or title after retirement),
Address,
Telephone number
Email address.

*Note there is no specified format that must be followed for below items.
The nominee's history (Their special field, Their research history, Their awards history, Their contributions with regard to universities, research institutions and learned societies, etc.)
A list of five major original papers or patents, etc., of the nominee, along with the excerpts thereof
A list of all of their original papers.
A letter setting out the reasons for nomination (expressed in two A4 pages or less, in either Japanese or English)
Major achievements (either in English (less than 800 characters) or in Japanese (less than 400 characters))
Short citation
120 ~ 250 characters. Please use the following format; "for outstanding contributions to (special

fields, areas, etc.)."
Please refer to JpGU Fellows
Three letters of support (of one A4 page each, in either Japanese or English, the inclusion of multiple names on letters of support is acceptable, by three supporters except for nominator)
The name and contact details of the principal nominator (their address, telephone number and email address, etc.)

4. Nomination
Nomination must be sent within the nomination period for the applicable year in question in the form of a word file and a PDF version thereof, by email addressed to the Office for the JpGU Fellow (jpgu_fellow(at)icloud.com). Supplemental publications can be provided only in PDF format.

Please put required items into a pdf file and a word file (25MByte or below.)
Subject of e-mail should be "JpGU フェロー推薦書（候補者氏名）" or "Nomination of JpGU Fellow (nominee's name)" .

* You should be receiving an email confirmation of your inquiry within 1 week.
If you do not receive a confirmation by e-mail within 1week, please contact us.
Without the email confirmation, your nomination will be invalid.

5. JpGU Fellowship Presentation Ceremonies

Presentation ceremonies for JpGU Fellowships shall be held at the JpGU Union Meeting, and medals shall be conferred upon the awardees.

6. JpGU Fellowship Evaluation Committee
Members of the JpGU Fellowship Evaluation Committee shall be appointed by the President after deliberations by the Board of Directors.
There shall be five members of the evaluation committee, with the term of Committee for each being two years. Each year, half of their number (either two or three members) shall be subject to reappointment. That being said, however, at the outset, two committee members shall be offset by being appointed to an initial term of Committee of three years.
Committee members shall be selected drawing on the JpGU membership while taking into consideration allocations of the different science sections.
The committee chairman shall be appointed by the JpGU President.
The names of committee members shall be published at such times as when a term of Committee concludes and committee member appointments occur.

7. Deadline of recommendation
December 31, 2017 (JST)

8. Mailing address
jpgu_fellow(at)icloud.com
Akiko Nakamura, Toshitaka Tsuda, Masato Nakamura

2017年度選挙スケジュール（案）

	月日	曜	進行
	7/21	（金）	理事会（選挙委員会立ち上げ）
代議員選挙	7/31	（月）	定数確定
	8/1	（火）	選挙公示
	8/10～9/11		候補者受付期間
	9/13～9/20		第1回選挙管理委員会　:候補者確定
	9/22	（金）	候補者リスト公開
	10/2～11/1		投票期間
	11/2	（木）	第2回選挙管理委員会　:開票、当選者確定
	11/6	（月）	開票結果公開
セクションプレジデント選挙	11/6	（月）	選挙公示
	11/7～16		候補者受付期間
	11/17	（金）	第3回選挙管理委員会
	11/20	（月）	候補者リスト公開
	11/28～12/11		投票期間
	12/12	（火）	第4回選挙管理委員会:開票、当選者確定
	12/13	（水）	開票結果公開
理事候補者選挙	12/13	（水）	選挙公示
	12/21～2018/1/11		候補者受付期間
	1/12～15	（金）	第5回選挙管理委員会　:候補者確定
	1/16	（火）	候補者リスト公開
	1/31～2/15		理事候補者選挙投票期間
	2/16～2/22		第6回選挙管理委員会　:開票
	2/23～3/2		役員候補者推薦委員会　:候補者リスト確定

共催・協賛・後援等一覧

2017/9/28 11:43

申請日	承認日	種別	金銭的援助の有無	対象	会合名等	主催者	開催期間	会場
6月15日	6月26日	協賛	無し	連合	女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～	独立行政法人国立女性教育会館	2017年8月5日（土）～8月7日（月）	場所：国立女性教育会館 所在地：〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
6月20日	6月26日	協賛	無し	連合	第33回京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門 英文公式名：The 2017 Kyoto Prize Workshop in Basic Sciences	公益財団法人稲盛財団	2017年11月12日（日）	場所：国立京都国際会館 所在地：〒606-0001 京都府京都市左京区岩倉大鷺町４２２
6月28日	7月4日	共催	無し	連合	第11回科学地理オリンピック日本選手権大会兼第14回国際地理オリンピック選抜大会共催のお願い	国際地理オリンピック日本委員会	2017年9月1日（金）～2018年3月11日（日）	場所：第1次選抜試験会場　全国28ヶ所/第2次選抜試験会場　全国約12会場(予定)/第3選抜試験会場　1ヶ所
7月31日	8月10日	協賛	無し	連合	第14回iCACGPシンポジウム/第15回IGAC科学会議2018	iCACGP/IGAC2018国際会議組織委員会	2018年9月25日（火）～2018年9月29日（土）	場所：サンポートホール高松 所在地：香川県高松市サンポート2-1
8月30日	9月7日	後援	無し	連合	日本学術会議公開シンポジウム「持続可能な社会づくりにおける地理教育の充実　－SDGs実現における教育の役割－」	日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会	2017年11月4日（土）	場所：東京大学教養学部12号館2階1225教室
9月4日	9月10日	後援	無し	連合	日本学術会議公開シンポジウム「GLP(全球陸域研究計画)の推進と国連持続可能な開発目標(SDGs)への貢献」	日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同IGBP・WCRP・DIVERSITAS合同分科会	2017年10月16日（月）	場所：日本学術会議講堂 所在地：〒106-8555　東京都港区六本木 7-22-34
9月20日	9月26日	協賛	無し	連合	第13回SEGJ国際シンポジウム	公益財団法人物理探査学会	2018年11月12日（月）～11月14日（水）	場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）

H29/9/29 理事会資料（ジャーナル関連）

1.　PEPS 論文投稿・出版状況（2017/9/19 現在）（資料 J_1）

・論文投稿数(Total:285)

～2014 年：71（Editorial-3,Correction-1, Review-21,Research-45,Methodology-1）

2015 年： 75（Review-21,Research-50、Methodology-3, Editorial-1）

2016 年： 61（Review-6, Research-50, Methodology/Preface/Datapaper-4）

2017 年： 78（Review-6, Research-67 Methodology/Preface/Datapaper-5）

・出版論文数(Total:139　Review 論文 27.8%)

～2014 年：29（editorial-3, Correction-1, Review-7, Research -18）

2015 年：46（Review-15, Research-31）

2016 年：38（Review-10, Research-22, Methodology-1, Preface-3,Editorial-1,correction-1）

2017 年：26（Review-5, Research-20, Methodology-1）

・査読中 ： 52（Review-5, Research-46, Methodology/Datapaper-1）

・出版校正中： 4（Research-4）

・reject/withdrawn 済： 90（32.3%）

2.　委員会報告

1）編集委員会 H29 年度第 3 回編集長会議（2017/9/5）：

全編集委員参加のメール会議で審議していた Data paper 出版に関する方針をまとめた。既存の Data paper との差別化を明確にするために名称を”Paper with full data attached”と変更し、投稿基準を Web 上に明記するとともに査読基準にも反映。メール会議にて最終的なコンセンサスを得た。

併せて、PEPS で扱う論文種類の見直しを行い、“Research Article”, “Methodology”, “Review”, “Paper with full data attached” の4種類を出版する事とする。

著者から連合大会発表 abstract の引用について問い合わせがあり、accept された会議 abstract の引用を認める事とする。また、連合大会の abstract にも Doi を付与するよう提案していく。

資料J1 Progress in Earth and Planetary Science 出版・投稿状況

■出版状況 (2017/9/19)

	2014				2015				2016				2017				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data	Total
1. Space and planetary sciences	2	1	0	3	6	5	0	11	2	1	0	3	1	3	0	4	11	10	0	21
	8.0%	4.0%	0.0%	12.0%	13.0%	10.9%	0.0%	23.9%	5.6%	2.8%	0.0%	8.3%	3.8%	11.5%	0.0%	15.4%	8.3%	7.5%	0.0%	15.8%
2. Atmospheric and hydrospheric	2	5	0	7	2	3	0	5	2	3	0	5	2	5	0	7	8	16	0	24
	8.0%	20.0%	0.0%	28.0%	4.3%	6.5%	0.0%	10.9%	5.6%	8.3%	0.0%	13.9%	7.7%	19.2%	0.0%	26.9%	6.0%	12.0%	0.0%	18.0%
3. Human geosciences	0	2	0	2	0	2	0	2	0	1	0	1	0	3	0	3	0	8	0	8
	0.0%	8.0%	0.0%	8.0%	0.0%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	2.8%	0.0%	2.8%	0.0%	11.5%	0.0%	11.5%	0.0%	6.0%	0.0%	6.0%
4. Solid earth sciences	2	9	0	11	4	16	0	20	3	13	3	19	2	6	0	8	11	44	3	58
	8.0%	36.0%	0.0%	44.0%	8.7%	34.8%	0.0%	43.5%	8.3%	36.1%	8.3%	52.8%	7.7%	23.1%	0.0%	30.8%	8.3%	33.1%	2.3%	43.6%
5. Biogeosciences	1	0	0	1	1	3	0	4	0	3	0	3	0	2	0	2	2	8	0	10
	4.0%	0.0%	0.0%	4.0%	2.2%	6.5%	0.0%	8.7%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%
6. Interdisciplinary research	0	1	0	1	2	2	0	4	3	1	1	5	0	1	1	2	5	5	2	12
	0.0%	4.0%	0.0%	4.0%	4.3%	4.3%	0.0%	8.7%	8.3%	2.8%	2.8%	13.9%	0.0%	3.8%	3.8%	7.7%	3.8%	3.8%	1.5%	9.0%
Subtotal	**7**	**18**	**0**	**25**	**15**	**31**	**0**	**46**	**10**	**22**	**4**	**36**	**5**	**20**	**1**	**26**	**37**	**91**	**5**	**133**
	28.0%	**72.0%**	**0.0%**	**100%**	**32.6%**	**67.4%**	**0.0%**	**100%**	**27.8%**	**61.1%**	**11.1%**	**100%**	**19.2%**	**76.9%**	**3.8%**	**100%**	**27.8%**	**68.4%**	**3.8%**	**100%**
Editorial/	-	-	-	3	-	-	-		-	-	-	1	-	-	-		-	-	-	4
Correction	-	-	-	1	-	-	-		-	-	-	1	-	-	-		-	-	-	2
Total				**29**				**46**				**38**				**26**				**139**

■投稿状況 (2017/9/19)

	～2014				2015				2016				2017				Total			
	Review	Resarch	Methodology	Total	Review	Resarch	Methodology /Debate	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Preface	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total	Review	Resarch	Methodology/ Data Paper/Case	Total
1. Space and planetary sciences	8	9	0	17	3	8	1	12	1	5	0	6	3	11	0	14	15	33	1	49
	11.9%	13.4%	0.0%	25.4%	4.1%	10.8%	1.4%	16.2%	1.7%	8.3%	0.0%	10.0%	3.8%	14.1%	0.0%	17.9%	5.4%	11.8%	0.4%	17.6%
2. Atmospheric and hydrospheric	5	7	0	12	3	8	0	11	1	9	0	10	1	26	1	28	10	50	1	61
	7.5%	10.4%	0.0%	17.9%	4.1%	10.8%	0.0%	14.9%	1.7%	15.0%	0.0%	16.7%	1.3%	33.3%	1.3%	35.9%	3.6%	17.9%	0.4%	21.9%
3. Human geosciences	1	4	0	5	0	4	0	4	0	7	0	7	0	6	0	6	1	21	0	22
	1.5%	6.0%	0.0%	7.5%	0.0%	5.4%	0.0%	5.4%	0.0%	11.7%	0.0%	11.7%	0.0%	7.7%	0.0%	7.7%	0.4%	7.5%	0.0%	7.9%
4. Solid earth sciences	3	17	1	21	10	23	2	35	3	20	2	25	1	16	2	19	17	76	7	100
	4.5%	25.4%	1.5%	31.3%	13.5%	31.1%	2.7%	47.3%	5.0%	33.3%	3.3%	41.7%	1.3%	20.5%	2.6%	24.4%	6.1%	27.2%	2.5%	35.8%
5. Biogeosciences	2	3	0	5	0	3	0	3	0	5	0	5	0	4	1	5	2	15	1	18
	3.0%	4.5%	0.0%	7.5%	0.0%	4.1%	0.0%	4.1%	0.0%	8.3%	0.0%	8.3%	0.0%	5.1%	1.3%	6.4%	0.7%	5.4%	0.4%	6.5%
6. Interdisciplinary research	2	5	0	7	5	4	0	9	1	4	2	7	1	4	1	6	9	17	3	29
	3.0%	7.5%	0.0%	10.4%	6.8%	5.4%	0.0%	12.2%	1.7%	6.7%	3.3%	11.7%	1.3%	5.1%	1.3%	7.7%	3.2%	6.1%	1.1%	10.4%
Subtotal	**21**	**45**	**1**	**67**	**21**	**50**	**3**	**74**	**6**	**50**	**4**	**60**	**6**	**67**	**5**	**78**	**54**	**212**	**13**	**279**
	31.3%	**67.2%**	**1.5%**	**100%**	**28.4%**	**67.6%**	**4.1%**	**100%**	**10.0%**	**83.3%**	**6.7%**	**100%**	**7.7%**	**85.9%**	**6.4%**	**100%**	**19.4%**	**76.0%**	**4.7%**	**100%**
Editorial/	-	-	-	3	-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	0	-	-	-	4
Correction	-	-	-	1	-	-	-		-	-	-	1	-	-	-	0	-	-	-	2
Total				**71**				**75**				**61**				**78**				**285**

注: 2016年の総投稿数には、投稿システム内で投稿番号が付与されないErratum原稿1件も含むため、実際の投稿受付番号60よりも1件多い。

■編集状況 (2017/9/19)

	Review	Resarch	Methodology /Data paper /Preface	Subtotal	Editorial + Correction	Total
Published	37	91	5	133	6	139
	13.3%	32.6%	1.8%	47.7%	-	-
Accepted including Provisionally-accepted		4	0	4	0	4
	0.0%	1.4%	0.0%	1.4%	-	-
Under review	5	46	1	52	0	52
	1.8%	16.5%	0.4%	18.6%	-	-
Rejected/Withdrawn	12	71	7	90	0	90
	4.3%	25.4%	2.5%	32.3%	-	-
Total	**54**	**212**	**13**	**279**	**6**	**285**
	19.4%	76.0%	4.7%	100.0%	-	-

2018 年連合大会準備状況報告

【Overview】

名称	日本地球惑星科学連合 2018 年大会
会期	2018 年 5 月 20 日(日) ～ 5 月 24 日(木) 5 日間
会場	幕張メッセ国際会議場, 同国際展示場ホール 7(ポスター発表および展示ブース), 東京ベイ幕張ホール

【Important Dates】

2017 年	
9 月 1 日(金)～10 月 12 日(木) 17 時まで	セッション提案
11 月 21 日(火)	コマ割公開
2018 年	
1 月 10 日(水)	投稿・参加登録開始(14:00～)
2 月 5 日(月)	投稿早期締切(～23:59)
2 月 19 日(月)	投稿最終締切(～17:00)
3 月 13 日(火)	採択通知
3 月 14 日(水)	発表プログラム一般公開
5 月 8 日(火)	早期参加登録締切(～23:59)
5 月 11 日(金)	予稿 PDF 公開

2018年大会プログラム委員

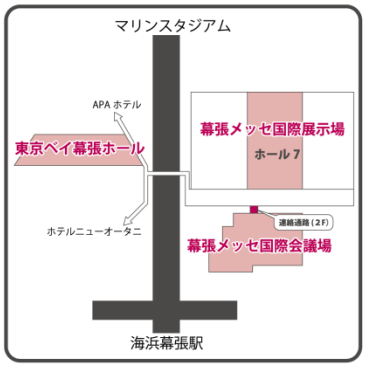
2018年大会委員長	樋口 篤志(大気水圏)		
2018年大会副委員長	LIU Huixin(宇宙惑星)	堀 和明(人間圏)	
プログラム委員長経験者	西山 忠男(固体)	鈴木 庸平(生命)	目代 邦康(人間圏)

宇宙惑星科学セクション	小川 泰信(宇宙空間)	奥住 聡(惑星科学)	
大気水圏科学セクション	西井 和晃(大気)	堀 雅裕(水文)	川合 義美
地球人間圏科学セクション	七山 太(自然地理)	杉戸 信彦(人間圏)	
固体地球科学セクション	生田 領野(地震)	奥村 聡(火山)	池田 剛(地質全般)
地球生命科学セクション	北台 紀夫	上野 雄一郎	
広報普及委員会(パブリック担当)	検討中		

学会名	委員氏名		
一般社団法人日本宇宙生物科学会	小林 憲正	内堀 幸夫	
一般社団法人 日本応用地質学会			
日本温泉科学会	木川田 喜一		
日本海洋学会	川合 義美	東塚 知己	
特定非営利活動法人日本火山学会	青木 陽介	石塚 吉浩	
形の科学会	松岡 篤	木元 克典	
日本活断層学会	松多 信尚	熊原 康博	
公益社団法人 日本気象学会	竹見 哲也	茂木 耕作	
一般社団法人 日本鉱物科学会	斉藤 哲	門馬 綱一	
日本古生物学会	ジェンキンズ ロバート	本山 功	
日本沙漠学会	今回無し		
資源地質学会	野崎 達生	実松 健造	
公益社団法人日本地震学会	青柳 恭平	大園 真子	馬場 俊孝
日本情報地質学会	野々垣 進	木戸 ゆかり	
日本水文科学会	町田 功		
一般社団法人水文・水資源学会	小杉 緑子	飯田 真一	
生態工学会			
生命の起原および進化学会			
石油技術協会	後藤 秀作	戸丸 仁	
公益社団法人 日本雪氷学会	堀 雅裕		
日本測地学会	大園 真子	飯沼 卓史	
日本大気化学会	岩本 洋子	中山 智喜	
日本大気電気学会			
日本堆積学会	山口 直文	北沢 俊幸	
日本第四紀学会	小荒井 衛	堀 和明	
日本地学教育学会	上村 剛史	南島 正重	
地学団体研究会	柳澤 教雄	五十嵐 聡	
公益社団法人日本地下水学会	林 武司	竹内 真司	
日本地球化学会	中川書子	藤谷 渉	黒田 潤一郎
地球環境史学会	岡崎 裕典	入野 智久	
地球電磁気・地球惑星圏学会	津川 卓也	大塚 雄一	
日本地形学連合	八反地 剛	島津 弘	
一般社団法人日本地質学会	岡田 誠	板木 拓也	
日本地図学会	小荒井 衛		
日本地熱学会			
地理科学学会	後藤 秀昭	熊原 康博	
公益社団法人日本地理学会	平野 淳平	財城 真寿美	
日本地理教育学会	池 俊介		
地理教育研究会			
一般社団法人地理情報システム学会	小口 高	王尾 和寿	
公益社団法人東京地学協会	飯島 慈裕		
東北地理学会	上田 元	八木 浩司	
土壌物理学会	濱本 昌一郎	小島 悠揮	
一般社団法人日本粘土学会			
日本農業気象学会	丸山 篤志	平田 竜一	
公益社団法人物理探査学会	光畑 裕司		
日本陸水学会	今回無し		
陸水物理研究会	鈴木 啓助		
一般社団法人 日本リモートセンシング学会	島崎 彦人	石内 鉄平	
日本惑星科学会	黒川 宏之	濱野 景子	

幕張メッセ会場　（2018 年，2019 年，2020 年，2022 年(予定)）

2018 年	2018 年 5 月 20 日(日)～24 日(木)　5 日間
2019 年	2019 年 5 月 26 日（日)～30 日(木)　5 日間
2020 年　*Joint Meeting	2020 年 5 月 24 日(日)～28 日(木)　5 日間
2022 年	日程未定

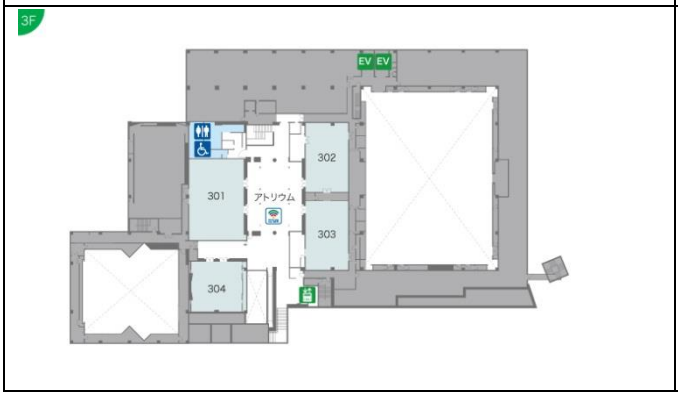


◎会場：

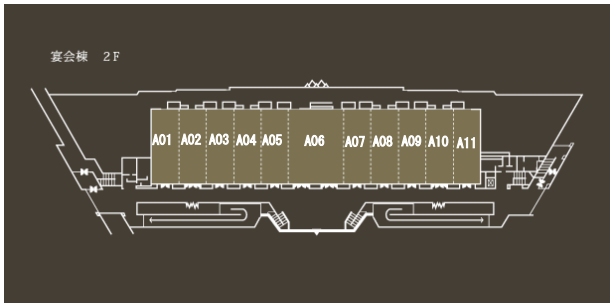
・千葉県千葉市幕張メッセ国際会議場全館

・国際展示場 Hall 7（または Hall 8）

・東京ベイ幕張ホール　(※土日祝日は 8 講演会場＋1 休憩室，平日は 10 講演会場＋1 休憩室)



幕張ホール



◎部屋数　口頭会場 27 部屋

83 ㎡	1 部屋	202
100 ㎡	1 部屋	106(多目的室)
130 ㎡	1 部屋	301A,
139 ㎡	1 部屋	102
150 ㎡	1 部屋	301B
156 ㎡	3 部屋	103, 104, 105
160 ㎡	1 部屋	101
165 ㎡	2 部屋	201A, 201B
190 ㎡	1 部屋	304
194 ㎡	2 部屋	302, 303
635 ㎡	1 部屋	国際会議室
670 ㎡	2 部屋	コンベンションホール A，コンベンションホール B
172 ㎡	10 部屋	A01, 02, 03, 04, 05, 07, 08, 09, 10, 11

◎ポスター・展示エリア（国際展示場 1 ホール）　6750 ㎡

みなとみらいコンベンション施設（仮称）

◎場所：パシフィコ横浜展示ホール北

◎部屋数　口頭会場 35 部屋

100 ㎡	2 部屋	G312, 412
104 ㎡	2 部屋	G313, 413
111 ㎡	12 部屋	G314, 315, 316, 317, 318, 319, 414, 415, 416, 417, 418, 419
123 ㎡	2 部屋	G320, 420
125 ㎡	2 部屋	G311, 411
126 ㎡	1 部屋	G221
132 ㎡	7 部屋	G213, 215, 216, 217, 218, 219, 220
140 ㎡	1 部屋	G214,
292 ㎡	2 部屋	G304, 404
295 ㎡	2 部屋	G303, 403
531 ㎡	2 部屋	G301+302, G401+402

◎ポスター・展示エリア（1F 多目的ホール）　6337 ㎡

IAG-IASPEI 2017 Kobe ブース出展

JpGU 事務局　白井佳代子
PEPS 事務局 浅田智世　岡田まゆみ

IAG-IASPEI 2017 Kobe　(July 30th, Sunday – August 4th, Friday)
Kobe International Conference Center
The Kobe Chamber of Commerce and Industry

展示期間：　July 31st, Monday – August 4th, Friday
展示会場：　Reception Hall, 3rd Floor #1 Booth
配布物：

【JpGU】 2018 年大会に関する三つ折りパンフレット（300 部）- 残部 8
ノベルティ（Umbrella Cover 300 個）16 個残
連合のロゴを掲載してくれている学協会の英文雑誌
1. The Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)
2. Earth, Planets and Space (EPS)
3. Geochemical Journal (GJ)
4. Journal of Agricultural Meteorology
5. Hydrological Research Letters
6. Resource Geology

【PEPS】 日本語リーフレット 230 部 – 残部 166
英語リーフレット 200 部 – 残部 11
A3 日本語パンフレット 250 部 – 残部 200
A3 英語パンフレット 200 部
論文サンプル 200 部
名入れ扇子（3 種類）600 個 – 残 46
フリクションボールペン 300 本 – 残 190
ステッカー（大）100 – 残 62
ステッカー（小）100 – 残 69

国際測地学協会 IAG と国際地震学・地球内部物理学協会 IASPEI は、四年に一度開催される IUGG 傘下の学協会で、IUGG の中間年に学術総会を開催している。今回は、IAG と IASPEI が合同した初めての事例であり、1995 年兵庫県南部地震が起きた神戸で開催された。約 60 か国から約 1100 人が参加した。前回日本で開催されたのは、IAG が 1982 年、IASPEI が 1985 年、IUGG が 2003 年であった。

組織委員会は、主催・共催・協賛・後援の各機関から構成され、山岡日本地震学会長が委員長を、日置日本測地学会長が副委員長を務めた。日本地球惑星科学連合は協賛し、組織委員会構成時は津田前会長が、開催時は川幡会長が委員として参画した。日本学術会議も主催であったため、安倍内閣総理大臣や大西日本学術会議会長から開会式にメッセージが寄せられた。

ブースでの出展は前後半に分け、下記の担当者で 2018 年連合大会と PEPS の広報宣伝活動を行った。

ブースセッティングおよび前半 3 日　：　PEPS 事務局　浅田・ JpGU 事務局　白井
後半 3 日および片付け　：　PEPS 事務局　岡田

＜詳細＞

・7 月 30 日（日）：　16:00 より受付開始、中庭で Ice Breaker が開催
・7 月 31 日（月）：　10:00-13:00 ブース搬入

【受付】 Registration Counter に前もって送られてきた Barcode を印刷したものを提出。スキャンされた情報が反映された名札（A4 の用紙）を受け取り、必要な部分を切り取って名札ケースに入れて使用する形式であった。
10:00 の時点で受付が混雑している状況は全くなく、全日程を通して、受付で混乱は見られなかった。
プログラムブック、コングレスバックは別の場所に置かれ、自分でピックアップするスタイルであった。

① Registration counter

② Name card, holder, program book

会議は Kobe International Conference Center で開催されており、その 3F ホールの入り口、一番目につく場所が JpGU Booth であった。一番に申し込んだのが功を奏したのかも知れない。ポスター発表は Kobe International Conference Center の向かいの The Kobe Chamber of Commerce and Industry の 2F と 3F で行われた。一人 2 日ずつポスター展示ができたのは発表者には好評だったようだ。午後の coffee break はポスター会場でのみ開催された為、参加者が皆、ポスター会場に流れたのか、大変活発に議論が行われていたようである。

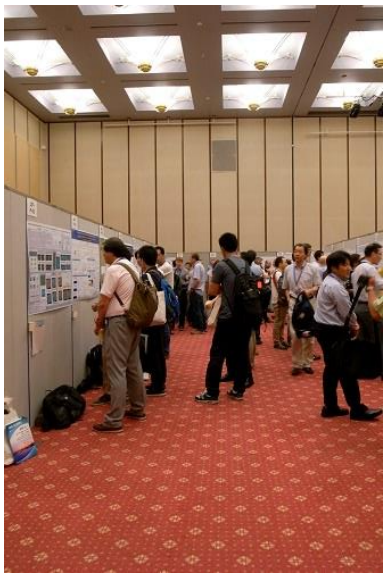
インド・ポーランド・オーストラリア・ネパール・ブータン・台湾・ポルトガル・カンボジア・日本等の国の方々がブースに立ち寄ってくれた。来場者からの主な質問は以下の通りであった。

・次回大会の日程（session proposal 等）
・トラベルサポート
・AGU とのジョイントはどうだったのか、今までと何が変わったのか？
・すべてのセッションが英語なのか？

Registration Logistics などはすべて JTB Communications Design に外注していた。両会場には coffee break の時、コーヒーと紅茶が用意され、ウォーターサーバーは常時設置してあった。

Plenary Lecture は IAG と IASPEI と各々主催で開催され、有料の Dinner Party も同様に各々主催で開催されたようである。
ポスターセッションのコアタイムはオーラルセッションとはオーバーラップしない形で毎日 15：30-16：30 に設定されており、色々な意味で時間設定に余裕が感じられた。

ポスターボードは縦置きであったが、スペースは十分に余裕があった。



国際会議場の作りが複雑でとポスター会場の案内など、少しわかりにくい印象があった。
最後に IAG-IASPEI は人数も小規模で、アットホームな感じでスタートした頃の JpGU を思いだした。

今回の総セッション数は 43、 内 IASPEI 27、 IAG 7、 Joint 9
総発表数は 1119、 内 IASPEI 563、 IAG 253、 Joint 303
参加国数は 60 ヵ国、総参加者数は 1075 人、 内 IASPEI 723 人、IAG 35 人であった。

次回は IUGG との総会で IUGG centennial にもなる Canada の Montreal で 7/8-19/2019 に開催予定である。

AOGS 2017 Singapore Booth 出展報告

事務局　白井　佳代子

＜背景＞

日本地球惑星科学連合(JpGU)と AOGS は MOU に基づき各々の大会で complimentary booth を提供している。 今回も JpGU Meeting 2018 のプロモーションと PEPS の宣伝、のため、AOGS 2017 Singapore B02 ブースにて出展を行った。

今回は IAG-IASPEI2017 が直近で開催された為ブース出展を見合わせた地震研のリーフレットと Partnership Society である AGU の Fall Meetings のポスターもブースに掲載し、併せて紹介した。

＜JpGU 関係者＞

事務局の担当として、白井佳代子、AOGS から招待された川幡穂高会長、木村学グローバル戦略委員会委員長、末広潔国際コーディネーター、高橋幸弘 Space and Planetary Sciences Section President 兼 グローバル戦略員会アジア太平洋作業部会長、Liu Huixin 前プログラム委員長、がブースにて宣伝活動を行った。今回も Huixin 先生のお子様方、Sophie さんと Reo (Leo?)くんが Goodwill ambassador として大活躍してくれた。

また今回 AOGS へ初参加していた富山大学の小坂由紀子さんも、突然のお願いに快く最終日のブース担当をしてくれ、JpGU ブースは最後まで大盛況であった。

＜期間＞

会期は 8 月 6 日（日）から 8 月 11 日（金）までの 6 日間で、8 月 6 日（日）の Welcome Reception から最終日まで、JpGU Meeting 2018 のリーフレット 500 部、JpGU 紹介の Booklet 400 部、PEPS のリーフレット 250 部と共に、JpGU ロゴの入った Umbrella cover480 枚と PEPS 提供の扇子 300 個、フリクションボールペン 200 個、PEPS のステッカー100 枚を配布した。JpGU ブースは大盛況で、331 名の名前とメールアドレスをいただき、ブース来訪のお礼のメールを 8 月中に送る予定である。

今回も連合のロゴを掲載してくれている以下の学会のジャーナルと PEPS の
Review Paper のサンプルも真剣に見てピックアップしていく若い参加者が多く、最終日にはすべて配布された。

1. The Journal of Mineralogical and Petrological Sciences (JMPS)
2. Earth, Planets and Space (EPS)
3. Geochemical Journal (GJ)
4. Journal of Agricultural Meteorology
5. Hydrological Research Letters
6. Resource Geology

＜ブースへの来訪者＞

ブースに立ち寄られた方々はフィリピン、中国、台湾、韓国、インド、スリランカと多岐に渡り、特に若者の参加者が多いように見えた。 Student Volunteer として AOGS の

運営を手伝っていた学生ボランティアは今回はフィリピンからの学生が多く、来年度の日本での大会への興味を示していた。

＜具体的なレポート＞

１）場所・現地の様子：展示会場は Singapore の Marina 地区の Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre の 3F で開催された。

２）プログラム

1st: 8:30-10:30（2.0h）2nd: 11:00-12:30（1.5h）

3rd: 14:00-15:30（1.5h）4th: 16:00-18:00（2.0h）

ポスターコアタイムは 3rd のタイムフレームに設定されていた。

２）会場サービス（ドリンクなど）：

AM Coffee/Tea：10:30am-11:00am PM Coffee/Tea：3:30pm-4:00pm

3:30pm 頃からはビールもサーブされた。

Welcome Reception：2 日目（月曜日；セッション開始日）：6:30pm-8:30pm にポスター会場と展示場の間のスペースであった。ビュッフェとビール、ワインなどが提供され、和やかな雰囲気であった。

３）出展者

出展者へのランチ提供：毎日ホール外のコーナーで、ビュッフェスタイルのランチが提供された。恒例になっているようで、出展社には好評であった。

NASA の Hyperwall presentation も開催されていた。今回の Student Program では会場での Presentation と共に近隣の学校に出張授業を行ったようである

他には台湾、韓国からの出展者も多く、日本からは他に EPS(Earth, Planets and Space)が出展していた。

出展者サービスとして Innovation Theatre が無料で提供されており、

毎日 1,2 件プレゼンテーションしていた。

日本からも EPS が発表しアピールしていた。

４）参加者など：レジストレーションは JpGU Meeting と同様、事前に送られてきたバーコートをスキャンして発券するシステムであり、発券もスムーズで行列ができることはなかったようである。投稿は 2460 件、参加人数は 49 の国と地域から 2,297 人でであった。

５）インターネット：会場すべてでスムースに無料インターネット接続が出来ていた。

６）4 Union Meeting

8/10（木）#304 にて AOGS 主催の 4 Union Meeting が開催された。

以下メモ部分末広さん作成

Attendees:

AOGS: Chu-Chieh Wu, Present Secretary General,

David Higgitt, Next President

Cheng-Hoon Khoo

EGU: Philippe Courtial, Executive Secretary

JpGU: Hodaka Kawahata, President
Toshitaka Tsuda, Past President
Gaku Kimura, Global Strategy Committee Chair
Yukihiro Takahashi, Chair of Working Group for Collaborations with Asian and Pacific Academic Societies
Kiyoshi Suyehiro, International Program Coordinator
Kayoko Shirai, Program Manager, Secretariat

AGU: reps not attending.

Wu Chun-chieh chaired the meeting. He opened the meeting and stated that we take this opportunity to exchange ideas for future collaborations in the form of free discussion.

Among the topics discussed;

(1) AOGS-EGU Joint Conference in February 2018 in the Philippines is a bilateral experimental effort and will aim for a few hundred participants. Its planning has started since about 8 years ago and an agreement was reached in 2014 AOGS meeting. Such joint conferences with specific themes in the future will be discussed among the 4 Unions.

(2) JpGU held a joint meeting with AGU this year with success. Both Unions will build on this success to host another joint meeting in 2020.

(3) EGU meeting is growing and 14,000 participants, this year. The number of Chinese participants showed accelerating increase, starting since 2014.

(4) AOGS Meeting is to be held in June/July/August timeframe. 2018 Hawaii meeting is in June avoiding the high season. AOGS has no membership fees.

(5) EGU has no sponsors; no donation programs. Attendants agreed the importance is the independence of the Union.

(6) PEPS and EPS are the 2 main journals of JpGU and its associate societies. We envision their merger in the near future.

(7) EGU put on the table the issue of pre-print server concept. AGU is forming an advisory committee on this matter. All Unions are encouraged to participate in this discussion.

(8) Besides the 4 Unions' annual meetings, there are international meetings of ICSU umbrella. There are limits to attending these meetings for an individual. Perhaps, we can focus on connecting similar efforts across national border

s or finding gaps to be filled across disciplines to serve better our communitie s.

(9) All participants recognized the importance of meeting face to face and exc hange candid ideas.

Next 4 Unions meeting will be hosted by EGU during the 2018 EGU Annual Me eting in Vienna.

７）Convener's Dinner

隣接する Pan Pacific Hotel L3 の The Edge を貸し切って開催された。

直前のユニオン合同会議が長引いた為、スタートには参加できていないが、特に挨拶などがセッティングされているわけではなく、本当にフレンドリーにパーティーで食事を楽しんでいる感じであった。一応入り口で Convener's Dinner のチケットは回収していた。

写楽のタペストリーは今回も大変好評であったので、海外でのブース出展の時には今後とも使用するとよいと思う。

また、JpGU 自体の宣伝用にはこのタペストリーがよいが、JpGU は Meeting がメインの事業なので、年度を変えれば毎回使えるような布製のタペストリーをもう 1 枚作成する必要があるように思う。2018 年度のグローバルの予算作成時に組み込んでもらえるとよいと思う。

Picture 1.

Picture 2.

Picture 3.

Picture 4.

写真：Picture 1. #B02　JpGU Booth at Exhibition Hall in Suntec Convention Centre

Picture 2. Registration

Picture 3.Convention Center

Picture 4. Poster presentation area

「アジアにおける学協会との協力関係に関するアンケート」へのご協力のお願い

2017 年　10 月　12 日

日本地球惑星科学連合グローバル戦略委員会

アジア太平洋作業部会

加盟学協会の皆様

グローバル戦略会議では今後のアジアとの関係を模索する為、アジア太平洋作業部会を立ち上げました。その中で、連合と協力関係にある、加盟学協会の皆様に、アジア太平洋地域で協力関係にある学協会について簡単なアンケートにご協力いただけますよう、お願いさせていただくことになりました。
お返事いただける範囲でご協力ください。

よろしくお願いいたします。

アジア太平洋地域における学協会との協力関係に関するアンケート

I.現状についてうかがいます。

1. アジア太平洋地域の学協会と MOU を結んで

（　いる　・　いない　）　（いずれかをお選びください。）

MOU は結んでいないが、学会レベルで定期的な交流を持って

（ いる ・ いない）（いずれかをお選びください。）

2. 1.で「結んでいる」「定期的な交流がある」とお答えの場合、先方の学会名をお知らせください。

_____

3. 1.で「結んでいる」とお答えの場合、具体的にどのような協力関係にあるかお知らせください。

（例： 年会時に総会に会長を招へいする / 隔年に委員を派遣して合同シンポジウムを行う / ICSU 関連組織で共同しているなど）

_____

_____

II.将来展望についてうかがいます。

1. アジア太平洋地域の学協会と MOU を結ぶ計画など、具体的な予定があればお書きください。

_____

2. 1.に伴い、予想される障害をお書きください。

_____

III.他、アジア太平洋地域の学協会との協力などに関して日本地球惑星科学連合へのリクエストがあればご自由にお書きください。

_____

_____

_____

回答者　学協会名 _____

氏名 _____

ご協力誠にありがとうございました。

2017 年 9 月 29 日

ダイバーシティ推進委員会　報告

1. 「Gender Summit 10」への参加

日程：2017 年 5 月 25 日（木）- 26 日（金）
会場：一橋講堂（〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2 階）
主催：国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議
テーマ：Better Science and Innovation through Gender, Diversity and Inclusive Engagement
（ジェンダーとダイバーシティ推進を通じた科学とイノベーションの向上）

・プレナリーセッション（ジェンダーの歴史と未来／アジアにおける深刻な問題への女性の貢献／ジェンダーに基づくイノベーション／科学の社会的責任）
・パラレルセッション（女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利点の具体化／ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示／スポーツにおける身体とジェンダー･サイエンスの推進／男女共同参画推進のための研究者情報の整備と活用／中等教育における女子学生の文理選択の健全化／男性・男子にとってのジェンダー平等）
・ポスターセッション（大学、研究所、企業、学協会などから 103 団体）

実施概要：JpGU における取り組みの紹介に関する内容で、委員会としてポスター発表を申し込み、小口が参加した。ちょうど JpGU-AGU2017 の直後でもあり、招聘したキプロスからの女性研究者も、ポスター参加していた（EU 内における支援制度である”Marri Currie Alumni Association”を利用した女性研究者のロールモデルに関する内容）。

2. 「女子中高生夏の学校 2017～科学・技術・人との出会い～」への参加

日程：2017 年 8 月 5 日（土）~7 日（月）に実施
会場：国立女性教育会館（埼玉県嵐山市）。
主催：独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）
共催：日本学術会議「科学者委員会 男女共同参画分科会」、お茶の水女子大学、沖縄科学技術大学院大学
後援：男女共同参画学協会連絡会、埼玉県教育委員会国立女性教育会館

実施概要：

・女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として合宿型の事業（JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム）を 2005 年度より実施。今年で 13 回目。全国から 103 名の女子中高生、19 名の保護者・教員の参加があった。
・進路選択をする際に影響力の大きい保護者・教員を対象とした研修も並行して実施。近い将来には、教員免許更新講習の認定となる可能性もある。
・生徒には、メンターマッチング活動を継続的に行い、希望に応じて事後も支援。
・国際企画の内容として、今年より留学生（理系女子）による研究紹介も行った。
・JpGU 加盟学会からの参加実績：地球電磁気・電離圏、地形学連合、惑星科学会、海洋学会、気象学会
・ダイバーシティ推進委員会の女子夏学担当委員（小川佳子、古市剛久、南雲直子、天野敦子、小口千明）による準備のほか、実験企画では、森淳子さん（中央大・非常勤）を講師として過冷却実験を、ポスター展示では、さらに、久保田好美さん（国立科学博物館）にも協力いただき演示実験をお願いした。

小口千明（埼玉大）

教育検討委員会　　2017・9・29　理事会　報告

１）教育課程小委員会

・7 月 5 日に,「「地学基礎」を主体的・対話的 により深く学ぶための提言」をメールにて文科省に送付した。畠山委員長が担当部署に連絡を取ったところ,部署内部での評判はよく次期学習指導要領の参考にさせてもらうとのことであった。

・9/16～18 で行われた日本地学教育学会・兵庫大会にて,JpGU で買い上げた埼玉県地学研究委員会発行の「地球惑星科学実習帳」250 冊を無料配布した。実習帳を入手した参加者から,実習帳を必要とする周りの方に是非配布したいとの意見が多数寄せられた。

・11/11（土）,12（日）の東大地震研での地学教育研究集会のプログラムが公開された。高校教育セッションに関して小委員会が講演者の人選を行い,全国から高校地学教員 10 名を招き,教育実践報告を行うこととなった。

２）教育国際対応小委員会

9 月 11 日 14-15 時に委員 4 名とアドバイザー1 名が出席し,第 1 回小委員会を開催し,以下の今後の委員会活動を決定した。

・今後,教育に関する海外からの問い合わせがあった場合は,委員間メールで情報交換した上で,返信する。

・AGI が進めている Earth Science Week に 2018 年 10 月 14～20 日に静岡県の各団体協力のもと,静岡県で開催できるかどうか検討することにした。

３）教職免許状更新講習

今年度の 4 つの講習が無事終了した。講習 03 で 1 名合格保留以外は全員合格。

講習 01　「総合的防災教育」　7/28　8 名講習

講習 02　「学校区での自然災害とその対策を考える」　8/6　3 名講習

講習 03　「石碑や海岸の地形,露頭から学ぶ,関東地方を襲った大地震とプレートテクトニクスおよび地磁気逆転の証拠」　8/22-23　13 名講習（他に聴講者 4 名）

講習 04　「数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎」　8/25　3 名講習

報告書は次の理事会までに提出予定。

４）地学/地理オリンピック

a)地学オリンピック

・8 月 22 日～29 日にかけてフランスのコートダジュールで開催された第 11 回国際地学オリンピック・フランス大会（29 ヵ国・地域、108 名）で，4 名の日本選手は金 2，銀 2(メダルから推定の国別順位は 1 位の中国（金 3，銀 1）に続き，台湾と同率の 2 位）の優秀な成績をおさめた。

・12 月 17 日におこなわれる第 10 回日本地学オリンピック予選の募集が 9 月 1 日から始まりました。締切は 11 月 15 日。なお、本選（予選の優秀者 60 名による）は 2018 年 3 月 11～13 日、2019 年タイ大会の代表選抜（本選の優秀者 10 名による）は 3 月 13～14 日の予定。

b)地理オリンピック

・2017 年 8 月 2 日～8 日，ベオグラード（セルビア）で行われた第 14 回国際地理オリンピックにおいて，団体部門のポスターセッションでは参加国・地域中第 1 位に輝いた。また個人部門では，代表 4 名のうち、銀メダル 1，銅メダル 1 を獲得した。

・第 12 回科学地理オリンピック日本選手権兼第 15 回国際地理オリンピック選抜大会募集開始申込み期間は 2017 年 9 月 1 日（金）～11 月 15 日（水）。なお，第 1 次選抜は 2017 年 12 月 16 日（土），第 2 次選抜（1 次選抜通過者約 100 名）は 2018 年 2 月 18 日（日），第 3 次選抜（1 次・2 次選抜総合成績上位者約 10 名）は 2018 年 3 月 10 日（土）～11 日（日）を予定している。